

飯綱高原スキー場後利用の 今後の進め方について

商工観光部観光振興課

■ 令和元年度に策定した「飯綱高原観光施設整備計画（飯綱高原ブランド化計画）」においては、飯綱高原を5つのエリアに分け、相互に連携をしながら飯綱高原を活性化していく方針を決定。

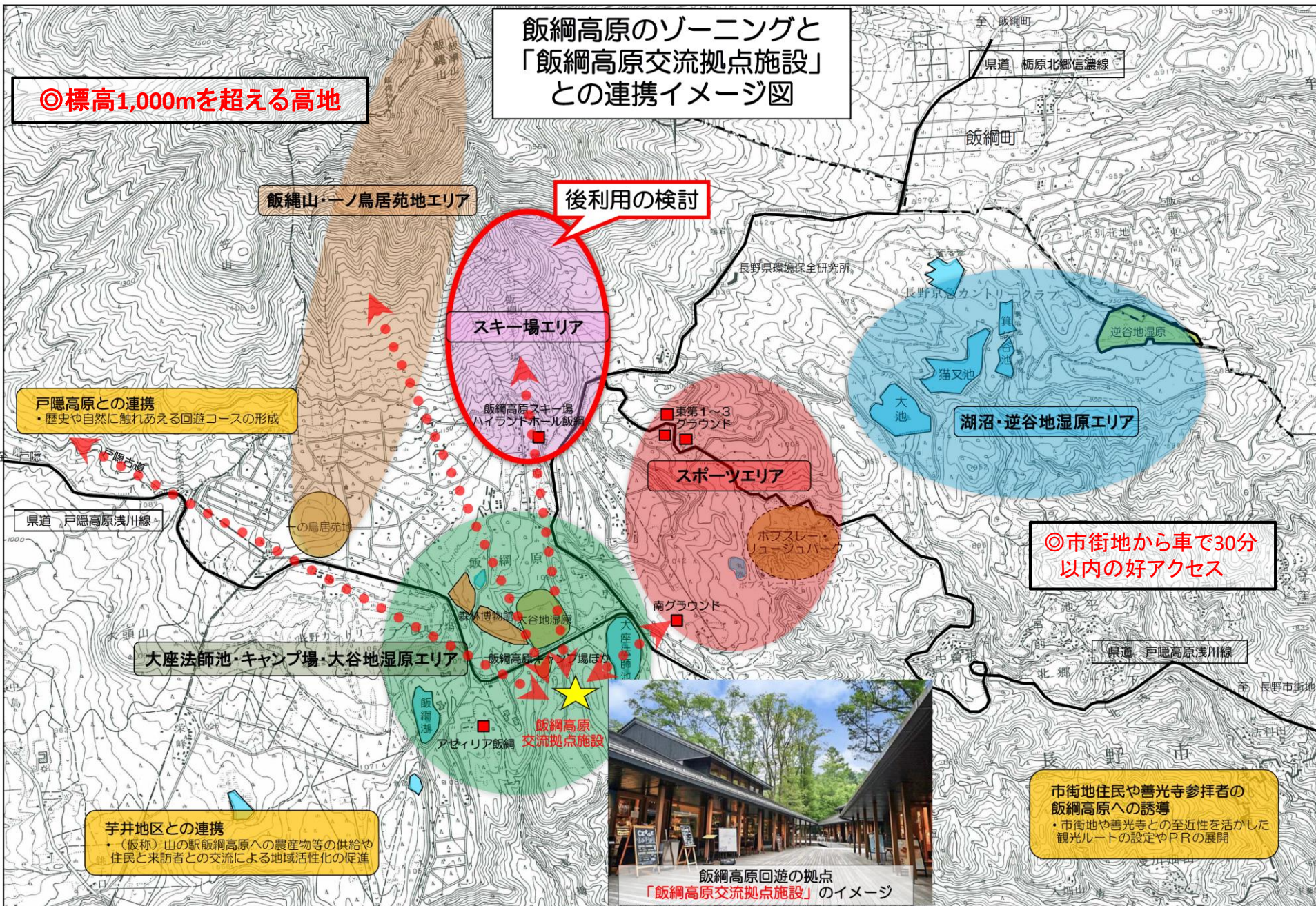
- ・ 大座法師池・キャンプ場・大谷地湿原エリア（飯綱高原交流拠点施設の建設）
- ・ スキー場エリア（後利用の検討）
- ・ スポーツエリア（南グラウンドの整備・A C長野パルセイロとの連携強化）
- ・ 飯縄山・一の鳥居苑地エリア
- ・ 湖沼・逆谷地湿原エリア



飯綱高原交流拠点施設完成イメージ



リニューアルを進める飯綱高原南グラウンド



<敷地>

スキー場敷地の所有状況	面積[ha]
国有地※	42.81
長野市有地	16.52
民有地(長野市開発公社)	1.20
計	60.53

※国との協議により、国有地を利用する提案も可能(内容は個別に判断)

<ハイランドホール飯綱>

- ・平成元年建設(鉄骨造2階建て)
- ・延床面積 1,190㎡

<駐車場>

各駐車場の面積	面積[㎡]
第一駐車場	8,000㎡
第二駐車場	10,444㎡
第三駐車場	9,350㎡

自然公園法等による規制(一部敷地除く)



- 以下の前提条件を踏まえ、後利用の検討を行っていく。

前提条件①

スキー場跡地という、「地理的」・「歴史的」に特殊な事情を含む敷地の後利用であること。

前提条件②

「長期滞在につながる魅力あるコンテンツ不足」、「地域を代表する産業がない」などの地域の課題を解決する必要があること。

前提条件③

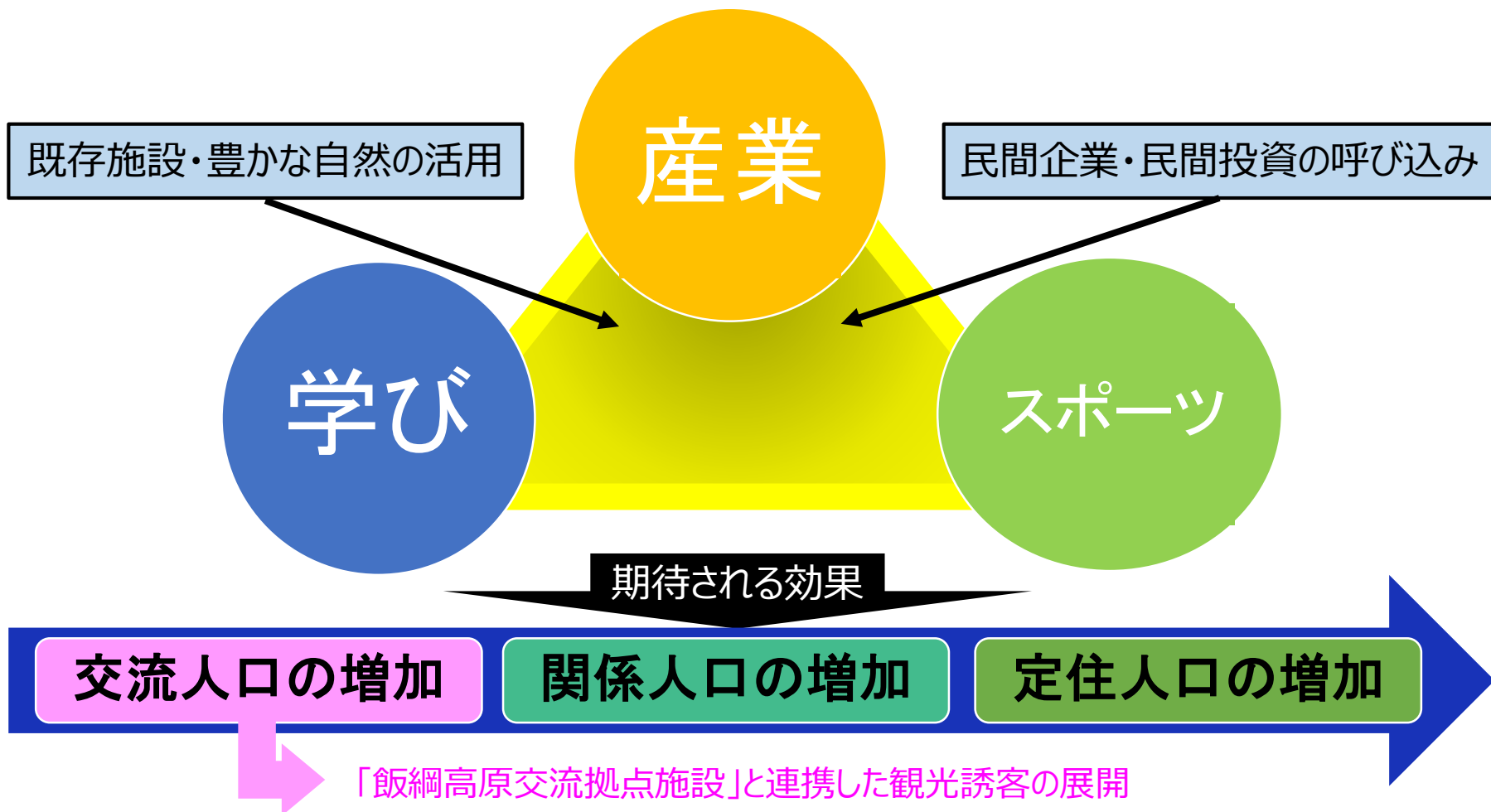
「働き方・ライフスタイルの変化」、「産業構造の変化」など、今後の世の中の流れを捉えた後利用であること。

これらを踏まえ、...

- どのようにして「人が集う魅力ある空間」に変えていくかを考える必要がある。

「産業」、「学び」、「スポーツ」の三本柱による
「飯綱高原のリノベーション」

★新たな視点からのアプローチ



■ 産業分野におけるビジョン・事業化イメージ

① スマートシティ“from 飯綱”

長野市が目指す「スマートシティNAGANO」構想のフロントランナーとして、大胆な実証実験が可能な広大な敷地を売りに、「人と技術が集まるまち」を目指します。

② クリエイティブエリア飯綱

働き方が大きく転換しているこのタイミングを好機と捉え、「突き抜けた企業」や「スタートアップ企業」が集まり、「様々なイノベーションを誘発するクリエイティブエリア」を目指します。

③ 「新」ブランディング戦略

これまで飯綱高原で形成されてきた歴史、文化、社会性などを掘り起こし、それを現在飯綱高原が持つ強みと掛け合わせる、「新たな飯綱高原のブランディング戦略」を実行します。



■ 学びの分野におけるビジョン・事業化イメージ

①「新たなワークライフバランス」が学べる空間

働き方改革の進展に伴って自宅時間が増えること等により、子どもとの向き合い方も変わっていく、また、変えていく必要があります。

「遊び」、「子育て」、「仕事」のバランスのとり方について、自然を通じて、大人・子ども双方が「学び」を得られる空間を目指します。

②自然共生型社会のモデルケース

なんとなく「樹木の伐採は悪」という感覚を持っている子どもは多い。それが正しいかどうかを、教科書からだけではなく、実体験を通じて学べるような場、それを実現できるポテンシャルが飯綱高原にはあります。

そのポテンシャルを最大限引き出せる空間が「飯綱高原スキー場跡地」とであると長野市は考えています。



■ スポーツ分野におけるビジョン・事業化イメージ

①「飯綱版」スポーツツーリズム

プロスポーツチームとの連携により、宿泊滞在型のスポーツイベントやスポーツ合宿を積極的に誘致し、交流人口の増加につなげていきます。

また、スポーツと体験学習を結び付けることにより、特定の競技をして終わりではない、「学びある新たなスポーツツーリズム」を生み出します。

②オリンピックレガシーの継承と「これから」

オリンピックスキーモーグル競技の開催場所である飯綱高原スキー場の「レガシー」を絶やさぬよう、持続可能なウィンターシーズンの活性化策を検討していきます。

将来的には、「1年を通じて様々なスポーツが楽しめるまち飯綱」の実現に向けた機運が高まっていくことを期待します。



AC長野パルセイロとの連携



高地トレーニングフィールドとしての活用



家族連れに好評だった「づなっち広場」

■「スキー場後利用」という前例のない事業の実施にあたっては、市の知見のみで判断しないことが極めて重要

■この基本的な考え方も、幅広い意見をお聞きする中で、必要に応じ見直しをしていきたい。

■特に、このスキー場跡地で実際に事業の実施を検討している事業者とは、事業アイデアやその波及効果、採算性などを含め、より具体的な議論を行いたい。

■市内外の希望事業者を対象に、「サウンディング型市場調査」※を実施する。

※「サウンディング型市場調査」とは、事業の検討にあたって、民間事業者（企業・NPO 法人等）から広く意見・提案を求め、市場性の有無や民間のアイデア等を把握するために実施する調査をいう。



■ サウンディング型市場調査の実施スケジュール（予定）※

項目	日程
①調査実施要領の公表	令和3年7月7日（水）
②事前説明会（現地見学会含む）	令和3年8月6日（金）
③対話参加申込み受付	令和3年8月6日（金）～25日（水）
④対話の実施	令和3年9月8日（水）～22日（水）
⑤対話の実施結果概要の公表	令和3年11月上旬

※ 申込み事業者の数によっては、スケジュールが前後することもあり得る。